

# みらいん

2013  
4月



移転予定地の周辺ガイド  
これから住む「まち」

仲間の輪を広げるキーパーソン  
ひとをつなぐ「ひと」

まちの語り場／住まいのコラム／被災地レポート  
続ける支援／記憶の写真館



「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。

# 荒井公共区画整理地区

今後の住まいの選択肢として、防災集団移転促進事業による移転や、復興公営住宅への入居などがあります。ここでは、皆さんの入居に向けて整備が進められる地区の様子と、周辺にお住まいの方の声をお届けします。



**東西線開通でさらに住みやすく**

西側に国道4号線、東側に仙台東部道路が近接し、交通の利便性が高い若林区の荒井公共区画整理地区。点在する四十八区画が市の防災集団移転促進事業での移転先宅地となっています。地区内には、公共施設や複数の医療機関、金融機関など生活に必要な施設、機関が揃っています。また、スーパーや衣料品店など商業施設も充実しているので買い物にも便利なエリアです。子どもたちが楽しく遊べる七郷中央公園をはじめ公園は八カ所あり、まちに住む方の憩いのスポットになっています。また、南側には広大な田んぼが広がり、そこには水田に浮かぶ緑の浮島のよいうな長喜城の居久根を望むこともできます。そんなのどかな風景を身近に感じられるところも、この地区の魅力のひとつです。

地区内を通るバスを利用すると、仙台駅前まで約二十五分。二〇二五年度に地下鉄東西線が開通すると、最寄りの六丁の目駅(仮称)、荒井駅(仮称)から仙台駅まではそれぞれ約十二分、約十五分と、仙台中心部がさらに身近になります。

## まちに住むひと

農業を中心に歴史を刻んできた荒井地区。人々の心に流れている「助け合い」の精神。ビルが建ち、まちの様子が変わっても、住む人の心は変わりません。



**菊地榮司さん**

七郷地区町内会連合会会長

「この荒井地区に新しい仲間が増える事は、大歓迎です。次々と市街地が形成されてきたこの地域ですが、人口が増えても変わらないのは、人情味あふれる七郷の心です。助け合いの精神で、温かいまちづくりにご参加ください」



**堀江達郎さん**

下荒井町内会会長  
民生委員・児童委員

「各町内会に民生・児童委員があり、特に高齢者福祉の分野では、地域包括支援センターや社会福祉協議会と協力しています。震災後は「共助」の充実を考えて、隣近所が助け合うような関係づくりをめざしています」



**庄子正信さん**

中荒井町内会会長

「荒井の中央部に位置する中荒井地区は、集団移転対象区画が多い地区です。2015年度には、地下鉄も開通する予定です。この地区へ移転される皆さんには、是非荒井地区で、新しい思い出をつくっていただきたいです」



**渡邊修一さん**

七郷中学校PTA会長

「七郷中学校PTAでは、生徒も教師も保護者も、一緒になってさまざまな催しに取り組んでいます。文化祭では、100名以上の保護者が参加して、食べ物の屋台を出すなど、積極的に地元の学校行事を盛り上げています」

## まちの施設

公共施設、商業施設が充実する荒井公共区画整理地区。安心と充実の日常生活を送ることができそうです。



**七郷市民センター**

若林区荒井字堀添 65-5  
022-288-8700  
休館日/月曜日、祝日の翌日

多くの方に利用されている地域に根ざした施設。震災の風化防止の取り組みとして、地域の方の震災体験や記憶を、記録集として残す作業が進行中です。また、被災された方を対象とした交流サロンが毎月第2金曜日に開催されています。



**仙台整形外科病院**

若林区伊在字東通 24  
022-288-8900  
診療時間 / 8:30~11:00、13:00~15:30 (土曜日午後休診)  
休診日/日曜日・祝日・第2・4土曜日

地区内で大きな規模の仙台整形外科病院には、市内外からも患者さんが訪れます。やさしさと思いやりにあふれた医療サービスをモットーとし、地区の防災訓練に参加するなど、地域との関わり合いも大切にしています。



**七郷小学校、七郷中学校**

七郷小学校(写真)  
若林区荒井字堀添 53-2  
七郷中学校  
若林区荒井字遠藤 9-3

地区の南東には七郷小学校と七郷中学校があり、通学に便利。明治6年開校、140年の歴史を持つ七郷小学校では、自分づくり教育や震災復興学習など、地域社会と関わり合う学習を通し、児童の育成に力を入れています。



**荒井駅(仮称)**

交通局東西線建設本部管理課  
022-712-8357  
都市整備局東西線沿線まちづくり課  
022-214-8296

地下鉄東西線、東部のターミナルとなるのが地区に隣接する「荒井駅(仮称)」です。地上2階、地下1階の施設には3歳未満児専用保育所や多目的に利用できる市民交流活動施設が整備される予定です。

## まちに住むひと

農業で暮らしてきた方々と、新たに移り住む方々によって、歴史が刷新されてきた今の田子。

田畑は少しずつ姿を消していますが、育んできた心の絆が地域に息づいています。



### 山田敦子さん

福田町地域包括支援センター所長  
看護師・介護支援専門員

「私たちは田子・高砂中学校区の七北田川右岸地域を担当しています。65歳以上の全ての方と、介護者であるご家族も支援させていただきます。お気軽にご相談ください。緊急時は24時間、365日対応します」



### 大場 博さん

宮城野区老人クラブ連合会理事  
高砂地区老人クラブ連合会副会長  
上田子楽寿会会長

「上田子楽寿会は、現在45名の会員が地域奉仕活動やウォーキング、グラウンドゴルフなどの健康増進活動を精力的に行っています。警察に勤務した経験を活かして防犯の相談にも応じています。お気軽にお声がけください」



### 鎌田広司さん

宮城野区高砂第一地区  
民生委員児童委員協議会  
主任児童委員  
あぐりKAMADA代表

「農業をしながら地域活動に関わっています。自宅の孟宗竹を使って子どもたちに竹細工を教えていたら「師匠」と声をかけられるように。また田子児童館で開催する『田子子育てサロン』は、毎回60名ほどの親子が参加し賑やかです」



### 松山繁夫さん

宮城野区高砂第一地区  
民生委員児童委員協議会会長  
田子2丁目寿会会長  
田子2丁目町内会副会長

「高砂第一民児協会長として、田子中学校区を担当しています。若く活力がある田子は、学校や病院が揃い、良いところ。生活環境の変化で最初は戸惑うことが多いでしょうが、新たな地に早く馴染むことを願っています」

## まちの店・施設

田子西・田子西隣接地区の周辺には地域の方々も利用する公共施設や神社仏閣などが立地。日々の生活に潤いを与えてくれそうです。



### 二木神社

宮城野区田子3-2-40  
022-258-1681 田村宮司(自宅)  
御祭神/伊邪奈岐神・伊邪奈美神  
春季例大祭4月第2日曜日

地域の守り神として、住民の皆さんのあつい信仰を得ている二木神社。春の例大祭では神輿渡御が盛大に田子全体を巡行します。「皆さんの結びつきの場として神社がその役割になればうれしいです」と、田村宮司。



### ヤマザワ田子店

宮城野区田子2-40-28  
022-387-8155  
営業時間/9:30~22:00  
(土・日曜日は9:00~)  
休業日/無休

「健康元気」をモットーに近郊農家の野菜をはじめ、新鮮でお値頃な生鮮品を取り揃え、地域の方の食生活を豊かにするべく、年中無休で営業しています。薬局、クリーニング店、写真店、七十七銀行ATMを併設しています。



### 仙台田子郵便局

宮城野区田子2-30-8  
022-786-0991  
営業時間/9:00~17:00(郵便窓口)  
休業日/土・日曜日

田子2丁目の宅地が造成完了した1997年に開局しました。郵便、貯金、保険、ATMサービスなどを、多くの地域の方が利用しています。「地域とともに歩みを進める郵便局でありたい」と話すのは、自身も2丁目在住の伊藤松悟局長。



### 田子市民センター 田子児童館

宮城野区田子2-4-25  
022-254-2721  
開館時間/9:00~21:00  
休館日/月曜日・祝日の翌日

年間を通じてさまざまな講座や祭りなどのイベントを開催し、地域の皆さんが「楽しく学び、楽しく交流する場」を提供しています。児童館も併設しておりますので気軽に利用してください。毎年2月開催のたごっ子祭りも人気です。



これから住む「まち」②

# 田子地区



**子育てしやすいまちは自然豊か**

北側が岩切、南側が福田町に隣接する田子は、開田によってまちづくりが進められてきました。東側には七北田川が流れ、川沿いの道を散歩やジョギングする人の姿が見られる自然豊かな地域です。最寄りの福田町駅から仙台駅までは四分と中心部へのアクセスも良く、幼稚園から高校まで教育機関が揃うため、子育て世代が多いのも特徴の一つです。そんな田子で、新たなまちが誕生しようとしています。それが田子西土地地区画整理事業地区と田子西隣接地区です。田子西は土地地区画整理事業が着々と進み、防災集団移転促進事業による移転先宅地は、今年四月から募集を開始する予定となっています。区画整地区北側の復興公営住宅は杭打ち工事中(二月末現在)で、二〇二三年度末の完成が待たれます。復興公営住宅の屋上に太陽光パネルを設置するなど、環境に優しいまちづくりを目指しています。二〇二四年度末に造成工事完了予定の田子西隣接地区は、造成地を取り囲むように緑地が配置される予定で、現在まちづくりに関する意見交換会が進められています。

# まちの語り場

宮城野区

## 中野小学校区 復興対策委員会

中野地区四町内会(港・浦生・西原・和田)が丸となり、復興に向けた活動を行っています。

### 三月三日(日)定例会議

内容

- 合同慰霊祭について、中野小学校舎のお別れ会について
- 復興事務局からの報告など

当日の様子

二月十九日に行われた「中野小学校校舎のお別れ会準備委員会」から報告がありました。復興事務局から、「仙台港背後地住宅地区」の申し込み状況と今後の予定について説明がありました。あわせて、被災した土地の買い取りは約九割から面積確認の同意の返送があり、市から確定通知を順次送付中であること、跡地の買い取りが進んでいる状況が報告されました。



問い合わせ先  
委員長 高橋 実 022-258-3068  
定例会議  
毎月第1、第3日曜日 16:00~  
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

若林区

## 明日の三本塚を 考える会

東六郷地区の農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

### 二月二十六日(火)定例会議

内容

- 状態調査の報告
- 今後のスケジュールについて

当日の様子

主に三本塚町内会の若手の皆さんを対象に行われた状態調査(聞き取り調査)では、地元三本塚への熱い思いや、消防団活動を通じて友情の輪が広がったことなどが報告されました。今後の活動として、地区内移転と従前地再建の会を、分科会形式で並行して進めること、津波災害時の避難ルートを地元主体で考えること、などが協議されました。



問い合わせ先  
代表 小野 吉信 090-3122-4843  
定例会議  
会議、学習会は自由参加、随時開催

宮城野区

## 南蒲生復興部

個々の生活再建と復興を迅速に進める為、南蒲生独自の復興まちづくりを進めています。

### 三月六日(水)定例会議

内容

- 各プロジェクトの報告、確認
- 移転再建について

当日の様子

「岡田バス操車場跡地」の活用法について、産直市場やレストランを兼ねた避難施設の創設を望む声があり、アイデアが出されました。移転再建に関しては再度、町内の塩事業センター西側への移転希望者を募り、世帯がまとまれば町内会として移転の後押しが可能であることが確認されました。また、町内の要支援者の把握やマップづくりの要望が話題にありました。



問い合わせ先  
代表 芳賀 正 090-4042-9464  
会合は随時開催  
住民説明報告会：毎月最終日曜日  
岡田会館

若林区

## 東六郷移転推進 協議会

東六郷の浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて先駆的に活動しています。

### 三月二日(土)定例会議

内容

- 仙台市、JAを交えた協議
- 要望書の確認、署名

当日の様子

仙台市都市整備局画整理課と復興事務局事業調整課、JAの融資関連部署を交えた協議が行われました。移転計画とそれに伴う資金計画についての現状を説明するとともに、計画への協力を求め、今後協議を重ねていくことが確認されました。また、浸水区域の集団移転事業への支援拡充を求め、仙台市へ提出する要望書の確認と署名が行われました。



問い合わせ先  
代表 落合 義光 090-4882-3368  
定例会議  
日辺グラウンド仮設住宅談話室で  
随時開催

若林区

## 荒浜移転 まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

### 二月二十二日(金)定例会議

内容

- 今後の予定について
- 協議会ニュース次号の予定

当日の様子

三月中旬に、荒井西土地画整理組合とまちづくりなどに関する意見交換を行うことが確認されました。協議会ニュース次号は、国への要望書提出について、協議会総会の開催告知、定例会議のスケジュールなどを掲載することが確認されました。また参加者から、復興公営住宅の戸建住宅に関する情報が不足している件などの話題が出ました。



問い合わせ先  
代表 末永 薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)  
定例会議  
毎週金曜日 19:00~  
サンピア2F 会議室4

若林区

## 荒浜再生を願う会

荒浜に戻っての生活再建を目指す有志が中心となって活動しています。

### 二月二十五日(月)定例会議

内容

- 「荒浜フォーラム」に向けて
- 情報交換、その他

当日の様子

五月に予定する「荒浜フォーラム」の開催前にやっておくべき活動として、仙台市民を対象に荒浜地域への理解を深めてもらうための活動を協議しました。また、荒浜には、市内唯一の海水浴場があったことから、仙台市沿岸部の特長を生かした将来像のトークイベントが必要であることが確認され、参加者は荒浜への思いを話し合いました。



問い合わせ先  
代表 貴田 喜一 090-8254-4270  
定例会議  
毎週月曜日 19:00~  
荒井小学校用地仮設住宅集会所

## 住まいの コラム

### 上手な資金計画が 住宅再建の第一歩です！

戸建住宅を新築するとき、まず頭に浮かぶのは「建物本体価格」です。「我が家の建築費用は大体二千万円位かな、自己資金が一千万円あるから、融資は一千万円受ければ済むだろう」という風に考えがちですが、ちよつと待ってください。

住宅の新築には、建物本体の建築費用のほかにも沢山の経費がかかります。税金や手数料、証明書取得費用などの諸経費がかさみますし、外構工事や配管

工事、設備工事の費用も発生します。このような諸経費は、最初から資金計画に予定しておきましょう。

また、震災復興支援策として、義援金や支援金の他に、金融機関から融資を受けた際に適用となる借入利子相当額の補助制度(※)もあります。これらの制度を上手に活用して、急な出費に備えるためにも、出来るだけ手元にお金が残るような(※)資金計画を立てましょう。

### Aさん(40歳、既存ローン無し)の資金計画例

建築プラン：土地70坪(借地)、建物40坪

●住宅建設に必要な資金	
・住宅建設費(50万円×40坪)	2,000万円
・諸費用、税金、工事費などの合計(照明・カーテン・外構含む)	700万円
○手元資金	
・預貯金	300万円
・義援金(津波浸水地区)	147万円
・支援金(基礎支援金)	100万円
・支援金(加算支援金)	200万円(申請後)
・元地買取金：面積と評価額による 元地100坪×評価額5万円/坪=	500万円
△融資を受ける額	
・住宅金融支援機構の災害復興住宅融資	1,460万円
(返済期間35年、返済総額1,723万円、利子分263万円) ※住宅金融支援機構平成25年2月21日の金利計算による	
・借入利子相当額の補助*1	263万円(444万円上限)
●住宅建設に必要な資金	
○手元資金+△融資額+利子補助額	2,970万円
☆当面手元に残るお金*2	270万円

※1：津波防災施設の整備を行っても津波による浸水が予想される地域に、2011年3月11日に住まいを所有し居住していた方が、仙台市の市街地などへ移転する場合の助成

監修：日本FP協会宮城支部

# ひとをつなぐ「ひと」

住み慣れた地域を離れながらも、新たな人とのつながりの中で笑顔を取り戻した方がいます。ここでご紹介するのは、同じ境遇の仲間と共に歩み、周囲を巻き込んで人の輪をもっと大きくする皆さんです。



## 皆が気軽に参加する 楽しい自治会が目標

**小瀬良 けさ子 さん 青葉区**  
小瀬良さんは、青葉区川内の国家公務員住宅の借り上げ仮設住宅にお住まいです。当初は住んでいる方同士の交流がまったくなかったことから、有志数人と自治会組織「川内清流の会」を立ち上げ、運営を始めました。現在は2代目会長として奮闘しています。自治会には仮設住宅に住む約100世帯が参加。敷地での清掃活動や花壇づくりなどの共同作業にも取り組みながら、少しずつ交流の輪を広げてきました。現在も集会所を拠点に、茶話会やカラオケ大会などを開催し、自治会内のコミュニティ形成に尽力しています。

**川内清流の会について**  
川内国家公務員住宅の仮設住宅自治会「川内清流の会」では、毎週交流イベントを開催。対象は同仮設住宅にお住まいの方となります。



同住宅内で生活を共にした  
応援警察官への贈り物として、ストラップを茶話会でつくりました。



## 集まることで 親睦を深めたい

**須藤 富夫 さん 泉区**  
NTT鶴が丘第一社宅に入居した約2ヵ月後に、周囲からの推薦で社宅がある鶴が丘1丁目町内会10地区長になった須藤さん。社宅の空き部屋を活用した集会所では、編み物や健康体操を定期的に行っています。毎月第3日曜日の朝には入居する皆さんのおよそ半数が集まり、敷地と周辺を掃除することで親睦を図っています。作業時は、普段のイベントでは集まりの悪い男性陣の参加率も高めです。町内会の秋祭りや新年会には皆さんを誘って出掛け、地域との交流を持つように心がけています。

**鶴が丘1丁目町内会10地区 (NTT鶴が丘第一社宅) について**  
地区の集会所で行う健康体操やお茶飲みサロンはどなたでも参加できます。参加希望の方は090-1061-6714 (須藤さん) まで。

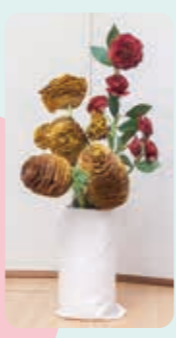


## 地元の事なら、何でも 私にお聞きください！

**庄子 昭一 さん 若林区**  
総戸数19戸の六丁の目中町西公園仮設住宅で自治会長を務める庄子さんは、六丁の目で代々続く農家で、六丁の目町内会の副会長でもあります。そのような関係から、見知らぬ地域へ来て不安を抱えている仮設住宅にお住まいの方が、地域へ溶け込んで安心して暮らせるよう配慮しています。去年は町内会の夏祭りへ仮設住宅にお住まいの皆さんを招待し、町内会の方と一緒に楽しみました。仮設住宅内で配布物を届ける際には、高齢者に声がけをするなどしながら訪問しています。

**六丁の目中町西公園仮設住宅自治会について**  
自治会が主催するイベントは、仮設住宅にお住まいの方が対象となっています。

春日井さんはじめ仮設住宅にお住まいの方が周辺で拾った松ぼっくりに彩色した作品。本物のバラの花かと思うほどの出来映えです。



## 思い立ったらすぐ行動 そのスピードと牽引力

**春日井 政秀 さん 若林区**  
昨年10月28日の卸町東二丁目公園仮設住宅自治会の秋祭りで、タオルで鉢巻をして机を並べたり炭火をおこしたりと、率先して準備していたのが自治会長の春日井さんです。よく通る大きな声で、集まった方々にプログラムの案内をしていました。また、別の日には、集会所で手芸をしている女性陣の手作業をニコニコ微笑みながら見ている姿もありました。持ち前の行動力と包容力で、仮設自治会の催しや、日々の業務をこなしています。優しくも頼もしい春日井さんです。

**卸町東二丁目公園仮設住宅自治会について**  
自治会が開催する自主イベントは不定期です。近隣の仮設住宅自治会と共催する場合がありますが、対象は仮設住宅にお住まいの方々です。



皆さんで大切に育てた花が咲き誇る花壇。地域の癒しスポットになっています。

つなぐその1  
**自治会・町内会をまとめています。**  
仮設住宅の自治会長として、または町内会の班・地区長として、共に暮らす方々のお世話役をしています。



## 町内会の一員として 地域へ感謝の気持ちを

**高宮 武 さん 青葉区**  
一昨年、借り上げ公営住宅のNTT角五郎社宅に入居した高宮さん。敷地内の掃除や、花壇づくりなどを通して、お住まいの方々と親交を深める一方、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。自治会を設立せずに、「町内会の一員として町内の活動に加わろう」という提案にお住まいの方々も賛同し、昨年、角五郎2丁目の町内会「角新会」のNTT角五郎社宅班が誕生しました。班長を務めることになった高宮さん。地域との交流に、多くの人を巻き込みたいとの思いを胸に、日々奔走しています。

**角新会 NTT角五郎社宅班について**  
集会所では、月に2回のお茶飲みサロンを開催しています。NTT角五郎社宅などにお住まいの方はぜひご参加ください。お問い合わせは090-7790-3435 (高宮さん) まで。



### 六郷の地域性が好き 肩寄せ合って新天地へ

落合 義光 さん 若林区

種次中野地区の方を中心に、浸水区域からの集団移転を計画している「東六郷移転推進協議会」。津波の心配のない安全な場所への移転を願う方々が集まり、勉強会や会議を開いています。代表を務めるのは6年前に地区に移住した落合さん。温かみのある地域性に惚れこみ、この計画をけん引しています。皆で肩寄せ合って仲良く暮らしていきたいと願う落合さんは、会の移転予定地近くへ集団移転を予定する方々とも交流を図りたいと、新たな地域社会づくりに意欲的です。

#### 東六郷移転推進協議会について

日辺グラウンド仮設住宅談話室で不定期に勉強会、会議を開催しています。お問い合わせは090-4882-3368 (落合さん)まで。



### 津波の事を忘れず あすと焼きを全国へ

鈴木 良一 さん 太白区

あすと焼き陶芸愛好会は、昨年、あすと長町仮設住宅で設立。仮設住宅以外からの参加者を含め計14名が活動中です。当初、鈴木さんは会のみとめ役として参加しましたが、今は、一会員として陶芸の制作や販売に尽力しています。そんな鈴木さんが心血を注ぐのが、会オリジナルの「あすと焼き」。思いを込めた鮮やかな色使いの焼き物を、仲間と共につくり出しています。「もっとたくさんの方に使ってほしい」との夢を実現するため、只今作品づくりに奮闘中です。

#### あすと焼き陶芸愛好会について

月に2回程度、あすと長町仮設住宅集会所で活動中です。興味のある方は若干名なら参加可能とのこと。詳細は090-1064-9764 (代表/門馬さん)まで。



「あすと焼き」は津波を模した青や、希望を象徴した赤など独特の色づかいが特徴です。



### お茶飲み交流から発展 楽しく手芸を続けます

佐藤 美恵子 さん 宮城野区

佐藤さんが借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの頃、婦人防火クラブの活動で震災前から面識ある方が、たまたま近所で同じように避難生活していました。その方々とお茶飲み交流が、やがて趣味の手芸へと発展していきました。お世話になっている仙台津波復興支援センターに全国から支援で届く布地類の仕分け作業を、仲間3人で時々お手伝いさせてもらっています。それぞれが得意な物をつくったり新作にチャレンジしたり。これからも、おしゃべりを楽しみながら小規模で手芸を続けていきます。

#### チョコット\*はぎれの会について

佐藤さんの再建した自宅で日時を決めず活動する手芸グループ「チョコット\*はぎれの会」。ご相談・ご興味がある方は、090-7335-8262 (佐藤さん)まで。



### 皆が気軽に集まる 場づくりを心がけて

庄司 恵子 さん 宮城野区

庄司さんの自宅脇で開店した喫茶店兼作業場「茶房・藤」は、手芸に精を出す方の拠点となっていて賑やかです。近隣だけでなく、遠くは矢本や鹿島台の方たちもここで作業し、作品を展示・販売しています。さらに「実用的に使える場所になれば」との言葉どおり、会場場所に悩む方には会場提供するなど、地域の方にも役立ててもらっています。ボランティアなど大勢の人の手で出来上がったお店だからこそ、支援する人も手芸をする人も誰もが寄り合い、つながる場に育てていきたいと考えています。

#### 茶房・藤について

「茶房・藤」(宮城野区蒲生字東城道田1)の営業は月、火、水、金曜日の10:00~15:00頃。コーヒー(150円~)なども提供しますが、持ち込みも可。手芸をする方も多く、どなたでも参加できます。



「ハワイアン・キルト」の作品など、皆さんそれぞれの技術力に合わせて制作しています。

つなくその2

### 新たな仲間の輪、できました。

震災の後に仲間と新しいグループを立ち上げ、活動をけん引している皆さんです。集いの目的はお茶飲み、手仕事などさまざまです。



### 交流づくりに一生懸命 皆に楽しんでほしい

寺嶋 渚 さん 若林区

借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方のグループ「若松会」の2代目代表、寺嶋さん。震災後、避難所に行けなかった方には情報や支援の手が届きにくかったことから、同じ境遇の人たちで情報を共有し、動きやすい環境をつくるために会を立ち上げました。運営には苦勞したものの、口コミなどで増えた会員は、荒浜にお住まいだった方を中心に、現在約140名に！季節ごとのイベントや毎週のお茶飲みサロンなど、会員同士が集まり、交流できる環境づくりに力を入れています。

#### 若松会について

入会は、現在借り上げ民間賃貸住宅にお住まいで、津波が浸水した地域に住んでいた方が対象です。入会・お問い合わせは022-285-7155 (若松会集会所：若林区沖野3-16-8)まで。



手づくりのガーデンプレート「小枝ちゃん」！イベントなどで販売しています。

## 友は宝！友だちの輪を拡大中



**菅原 てつ子 さん 泉区**

支えあいセンターいずみが開催している交流サロンに皆勤賞といえるほど参加している菅原さん。気仙沼市から仙台市へと転居してきた菅原さんは友だちをつくるため、寿大学や地域の催し物にも積極的に顔を出し、お付き合いの範囲を広げています。同じく市外から転居してきたという交流サロンで出会った仲間にも、自身が参加している地域の催し物を紹介し、親睦を深めています。交流サロンで育んだつながりを、地域へと広げている菅原さんです。

### 菅原さんが参加するサロンについて

支えあいセンターいずみでは、月に4回程度、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方を対象とした交流サロンなどを開催しています。詳細と参加をご希望の方は022-772-5755（支えあいセンターいずみ）まで。

「還り雛」は還暦を迎え、新たに一から始まるお雛さま。自分のための厄除けの品でもあります。



## 勇気を出して交流の輪を広げよう

**高橋 節子 さん 青葉区**

石巻市雄勝町から仙台市の借り上げ民間賃貸住宅へ移り住んで半年が過ぎた2011年12月、高橋さんは勇気を出して自宅近くで催されている交流サロンに参加したことから、次々と交流の輪が広がっていきました。箱根から駆けつけてくれる先生のオリジナル作品をつくる「還り雛の会」には、県内外から移られた方が参加し連絡網をつくるまでに発展しました。他にも支えあいセンターが主催する「雄勝サロン」や「手芸サロン」など、情報提供しながら笑顔の交流が続きます。

### 高橋さんが参加するサロンについて

「還り雛の会」設立のきっかけになったイベントを主催したのは、仙台市ボランティアセンター・復興支援「EGAO（笑顔）せんだい」サポートステーション。各種イベント情報は022-266-6805まで。



## 赤手ぬぐいのムードメーカー

**山下 英子 さん 泉区**

まだ寒い2月13日に泉区で開催された支えあいセンターの巡回相談で、赤い手ぬぐいをほおかぶりした女性を中心に踊りの輪が広がっていました。この中心人物が、山下さんです。会場でお茶飲みに集まった皆さんに、折込チラシを用いた卓上ゴミ入れの作り方を伝授したり、即興の踊りを踊ってみせたり、積極的にコミュニケーションの輪を広げていました。暖かくなれば、もっと活動範囲を広げて、沢山の友だちをつくりたいと願っている山下さんです。

### 山下さんが参加するサロンについて

泉区の南光台コミュニティ・センターでは、毎月1回巡回相談とサロンが開催されています。参加希望の方は022-772-5755（支えあいセンターいずみ）までお問い合わせください。

ご登場いただいた皆さんが関わる会やグループの中で、参加者を募集している場合は連絡先を明記しました。興味のある方は、ぜひ参加してみてくださいね。

## 福島弁で交流し“家族”になっていく

**阿部 利一 さん 青葉区**

福島県双葉町で建設業を営み、下羽鳥地区長として地域活動にも精力的に取り組んでいた阿部さん。2012年4月、仙台市へ住民票を移して間もなく、行政の方から提案された「ふるさと別交流会」の企画委員として携わっています。毎月1回、福島弁で思いを分かち合い交流する場を、多くの方が心待ちにして参加されています。「だんだん家族の付き合いになりますね」と阿部さん。皆さんからの提案を受けて、この3月には食事を開くなど、徐々に自主的な活動に発展しています。

### 阿部さんが参加するサロンについて

毎月1回「福島交流会」を開催しています。福島県から移転された方はどなたでも参加できます。次回は4月16日（火）。お問い合わせは022-225-7211（内6785 / 青葉区家庭健康課）まで。



## お茶飲みしながら交流しませんか

**酒井 一弘 さん 太白区**

酒井さんは借り上げ民間賃貸住宅に暮らしながら、あすと長町仮設住宅で開催されているみやぎ生協主催のふれあい喫茶でボランティアをしています。同じ避難所で過ごした仲間が同仮設住宅に入居していることもあり、スタッフとしての参加を決めました。唯一の男性スタッフということもあり、すぐに顔を覚えてもらえて、声をかけられることが多いという酒井さん。運営スタッフと参加者との橋渡し役として、交流の広がりを手助けしています。

### 酒井さんが参加するサロンについて

あすと長町仮設住宅にお住まいの方を対象とするふれあい喫茶は、月1回開催。次回は4月16日（火）10:30～11:30。お問い合わせは070-5625-4435（みやぎ生協／小野寺さん）まで。

つなぐその3

## 交流サロンなどに参加しています。

はじめはひとりで参加していた皆さん。今は交流サロンなどを通して仲間がたくさんできました。



## 自治会の作業とは違うのんびり楽しめる活動

**遠藤 利恵 さん 太白区**

遠藤さんが「毎週訪れるのが楽しみ」と話す施設が、太白区あすと長町にあるコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」です。毎週、就労支援や居場所づくりなどを目的にした活動が行われていますが、遠藤さんはおもに「ころころこまる」と呼ばれる羊毛フェルト製のアイテムを制作。仮設住宅で携わる自治会での活動とは違い、のんびりとプライベート感覚で作業を楽しんでいます。「不器用な私でも続けているのは、ここで出会えた仲間がいるから」とほほ笑みながら、今日も作業にいそしみます。

### 遠藤さんが参加するサロンについて

コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」では、復興定期便の封入作業や、料理教室などの就労支援や居場所づくりを目的とした活動を行っています。参加希望の方は、022-398-8747（パーソナルサポートセンター就労支援事業部）まで。

羊毛フェルトの「ころころこまる」は、誰でも気軽につくれるかわいいアイテムです。



# 被災地レポート

取材地

## 石巻市市街地エリア／名取市閑上エリア

### 石巻市市街地エリア



①日和山から眺めた石巻市街地  
②石巻の地名の由来「巻石」が描かれた看板がまきいしの自慢です③観慶丸では復興の商品を取り扱っています④手造りパン工房バオ代表の谷地田けい子さん⑤二色餅の三代目・西川暎氣さん、垂月子さんご夫妻



### 震災の爪痕残る街中 石巻市街地を歩く

震災当時のまま残された建物や更地が目立つ石巻市街地には今、数々のボランティア拠点が構えられています。また、石巻のシンボルともいえる「石ノ森萬画館」①が今年三月二十三日に展示物をリニューアルし再オープンするなど、明るいニュースも増えています。

アイトピア通りにある釜飯のお店「まきいし」②は二階の浸水被害を受けながらも現地で営業を再開しています。小上がりだった二階部分はテーブルになり、釜飯の提供方法が卓上炊きと変わりましたが、レシビは変わらず、昔のままの味を楽しむことができます。

石巻市民にはおなじみの「旧観慶丸商店」は、「復興ステーション 観慶丸」③として被災された方の手づくりの品など、復興に関係した商品を取り扱うお店に

### 移転再建して がんばっています

なっています。さまざまな催し物も行っており、昔を懐かしんで訪れる人々の再会の場にもなっているそうです。

立町イーケーパーキング内にある、石巻立町復興ふれあい商店街。その中の二店舗「手造りパン工房バオ」④は元々、北上川にほど近い中央で営業していましたが被災し、プレハブの仮設店舗へ移転しました。名物の「生ゆばパン」の味はそのままに、新たなスタートを切っています。

駅前には真新しい「二色餅」⑤の看板が。創業八十一年を誇る「二色餅」は中央から駅前へと移転しました。泉町には工場兼店舗も構え、石巻を訪れる人々に昔ながらの味を提供しています。

石巻市の復興情報やお知らせは、ホームページで提供中です。詳しくは <http://www.city.ishinomaki.jp/>。

### 地域コミュニティの復活

全域に甚大な津波被害の跡が残る名取市閑上地区。十四名の生徒が犠牲になつた閑上中学校には、供養のための慰霊碑のほか、慰霊碑の社務所としての役割を担うプレハブ施設「閑上の記憶」②が建てられています。閑上地区の被害状況や資料などを展示するほか、地元の方々が立ち寄れる集会所として施設を開放しています。「もともと閑上に住んでいた人に訪れてもらいたい施設です」と、スタッフの上条幸恵さんは話します。

閑上出身で現在は仮設住宅で暮らす方の中には、震災前からの活動を復活させている人もいました。閑上の郷土芸能として親しまれていた「閑上太鼓保存会」の面々は、テレビ番組出演をきっかけに練習を再開させています。「閑上大漁唄込み」のパートを担当する赤間勲会長は、「閑上太鼓保存会」の面々は、テレビ番組出演をきっかけに練習を再開させています。長ら七人のグループ③は、毎週金曜日に

美田園第二団地仮設住宅集会所で練習を続けています。

### 閑上復興に尽力する商人たち

「ゆりあげ港朝市」が復活します。震災後は「イオンモール名取」駐車場で営業してきましたが④、今年五月に元の港エリア①での再開が決定。ゆりあげ港朝市協同組合の櫻井広行会長は「閑上を盛り上げるためにもがんばってきたい」と、熱く語ってくれました。

地元閑上の味として愛されていた中華料理店「閑上 浜一番」⑤は、青葉区錦ヶ丘で新店舗を立ち上げました。味は閑上で営業していた当時のまま。閑上から離れた場所での再スタートは不安でしたが、再開を聞きつけた昔なじみにも助けられ、営業を続けています。

名取市からのお知らせは、ホームページなどで提供しています。詳しくは <http://www.city.natori.miyagi.jp/>。

### 名取市閑上エリア



①復興途中の閑上ですが、いち早く復活予定の朝市会場が整備されています②「閑上の記憶」にはスタッフが常駐しています③練習に精を出す閑上大漁唄込みの面々④毎週多くの買い物客が訪れる3月現在の朝市⑤屋号に閑上の文字を入れた「浜一番」



## 交流サロン

### 和み・かたらいん茶話会

主催/支えあいセンターわかばやし

- 4月25日(木)10:00~12:00
- 若林区中央市民センター 別棟和室4・5(若林区保春院前丁3-4)
- 対象/東北沿岸部で被災し、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方
- 内容/茶話会(参加無料)
- 要申し込み(電話・返信はがき)
- 問・申込/支えあいセンターわかばやし TEL:022-781-0559
- ※他にもさまざまな方を対象としたサロンを開催。詳しくは中核支えあいセンター(TEL:022-217-7234)まで

### 名取市常設サロン

主催/名取市サポートセンター「どっとなとり」

- 月~金曜日 9:00~16:30
- 柳生サロン:(太白区柳生4-3-12 ハイリュエムビル104号室)
- 袋原サロン:(太白区袋原4-24-8 グレースハイイツ101号)
- 対象/名取市で被災され、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方
- 内容/各種イベント。詳細は要問い合わせ(参加無料)
- 申し込み不要
- 問・申込/柳生サロン TEL:022-797-2017
- 袋原サロン TEL:022-797-2841

### ふくしまほっこりカフェ

主催/ふくしまほっこりカフェ実行委員会

- 毎週火曜日(5週目は休み)10:00~12:00
- ハート&アート空間 ビーアイ(青葉区立町20-11 ミカミハウス2階)
- 対象/原発の影響で福島県や宮城県南から仙台市付近に転居された方
- 内容/茶話会など(参加無料)
- 前日まで要申し込み(電話・FAX・メール)※子ども参加の場合は人数と年齢を明記
- 問・申込/ハート&アート空間 ビーアイ TEL:022-262-2969
- FAX:022-262-2975
- メール:zoukabako@gold.ocn.ne.jp

### 第9回 鳴瀬サロン

主催/鳴瀬サロン

- 4月20日(土)10:00~
- 仙台駅西口タクシー乗降場隣の観光バスターミナル集合
- 対象/東松島市鳴瀬地区で被災された方
- 内容/春の日帰り温泉の旅(参加費2000円)
- 4月10日(水)まで要申し込み(電話)
- 問・申込/鳴瀬サロン事務局 TEL:080-5562-9218(高橋)
- ※通常は月1回のサロンを開催。詳しくは上記へお問い合わせ

### 宮城・岩手県沿岸部交流会

主催/青葉区家庭健康課

- 4月15日(月)10:00~12:00
- 青葉区役所2階(青葉区上杉1-5-1)
- 対象/宮城県・岩手県沿岸部で被災された方
- 内容/茶話会(参加無料)
- はじめて参加される方は要申し込み(電話)
- 問・申込/青葉区家庭健康課 TEL:022-225-7211(内線6785)
- ※他にもさまざまな方を対象としたサロンを開催。詳しくは上記へお問い合わせ





# 在仙コミュニティライジオ三局

f m いずみ (泉区) / ラジオ3 (若林区) / エフエムたいはく (太白区)

東日本大震災から二年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいまいます。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。今回はコミュニティライジオ局の震災からの活動内容をお届けします。

東日本大震災によって広域で停電になった仙台市内では、テレビやパソコンが使用できなくなり、ラジオから流れるニュースが貴重な情報源になりました。大災害発生時に強みを発揮した地域密着型のコミュニティライジオ局は、震災をどのように伝え、被災された方に寄り添う情報をどんな形でこれからも届けようとしているのでしょうか。大学生の記者三人が、市内に拠点を置く三局をそれぞれ訪ね、放送に託した復興への思いを取材しました。

## 備え続ける大切さを伝える f m いずみ

f m いずみは地下鉄泉中央駅のビル三階に入居し、入念な地震対策をしてきたにもかかわらず、震災時は一時的に放送中断を余儀なくされま



「壁にボルトで固定していた放送機材の棚が倒れてしまっただけで、うほどの長い揺れでした。機材はラジオ局の心臓部とも言える、放送になくならない装置だったんですが……」。f m いずみの取締役事業部長でパーソナリティ、さらに民間資格の防災士として防災の啓発活動も行う阿部清人さんは言います。しかし「何としても放送しなくちゃいけない」と、スタッフと重い放送機材を建物の外に持ち出し、臨時スタジオとして迎え入れてくれた泉区役所の会議室へ運びました。発電機や無線機、燃料



佐藤研さんは同局のスタジオにいました。揺れが収まるとスタッフの安否を確認。機材の故障などがないことも分かったと、スタッフは街に飛び出しました。少しでも多くの情報を手に入れようと原付バイクや自転車で市内を走り回らう中、中心市街地は少し先さえも見えなくなるほどの吹雪に包まれました。視界と体温を奪う無情な雪の中、有益な情報をリスナーの方に伝えるため情報を求め続けたのです。

その後から現在も継続して、震災関連情報を届けています。「復興への力になりたい」。その思いは、毎週火く金曜日に発信している復興応援番組「がんばろう仙台・宮城」に表れています。主な内容は、宮城県や仙台市が発表した震災関連の情報や、リスナーから寄せられた震災関連のイベント情報などです。

「震災から二年が過ぎ、人々の意



識は震災から離れがちです。しかし、震災を発端とする問題や震災関連の情報は尽きません。そういった部分にこそ目を向け、番組で取り上げて行きたいと思えます」と佐藤さん。

「震災に関する番組は、これから可能な限り継続していくつもりです。もし、東日本大震災クラスの地震や天災が仙台を再び襲った時も、私たちはリスナーの皆さんが必要としている情報を放送する。それが役目だと思っています」。

## 震災特別番組を放送 エフエムたいはく

「火の元にご注意下さい、机の下に避難を」。エフエムたいはくのパーソナリティ千葉めぐみさんが放送中、リスナーに鬼気迫る声で呼びかけました。ラジオ局の予備電源が持つ限り、必死に地震の状況を伝え続けた

などを災害発生時のために準備し、どこからでも放送できるようにしていたのが幸いしました。



震災翌日の午後には放送を再開できました。放送でお知らせする情報は、スタッフや一般ボランティアの方々が自転車などで地域を駆け回って集め、食料の配布や給水などの情報、安否情報、避難所での心構えなどを伝えました。その後は泉区内のみやぎ仙台商工会に臨時スタジオを移

転し、最終的に泉中央駅のビルに二〇一一年四月一日に戻りました。

現在の放送では、行政機関から



のです。巨大津波の襲来を知ったのは、予備電源が切れてしまった後でした。同局代表の野田紀子さんは「津波の情報を伝えられなかったことは無念でした」と肩を落とします。

停電は三月十六日まで続きました。電気が復旧するまで積み重ねてきた取材をもとに、ようやく生活支援情報などを放送できるようになりました。今は予備電源として十分な量の発電機を確保しています。

現在もエ



フエムたいはくでは、毎週金曜日の午前九時三十分から、「3・11から」 という番組を放送。野田代表自らがパーソナリティを務めています。毎月十二日には震災特別番組も編成。「3・11」に関する番組を通して減災、防災を分かりやすく伝えていけるのです。野田代表は、ひととき力強い声で語ります。「震災に関わる情報を絶えることなくお伝えするのが、私たちの使命です」。

## 復興への力になりたい ラジオ3

東日本大震災が発生した瞬間、ラジオ3のマーケティングチーム課長、

### 震災関連情報を放送する番組

- 3局共通**
- be A-live 内 せんだい復興日記 (月～金曜日 10:30～10:35)
- f m いずみ 79.7MHz**
- あべきよトーク (月・木曜日 9:32～9:42)
- キボウノチカラ (火曜日 14:00～14:10)
- ラジオ3 76.2MHz**
- がんばろう仙台・宮城 (火～金曜日 14:00～14:45)
- マイタウンレディオ (月～金曜日 15:00～17:00)
- エフエムたいはく 78.9MHz**
- ほっとすて～しよん (月～金曜日 12:00～13:55)
- 3.11 から (金曜日 9:30～9:55)

※番組のタイトル・放送時間は変更になる場合があります

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせをお届けするコーナーです。お茶飲みしながら、のんびり読んでください。

●先日参加した、支えあいセンター交流サロン「あったかカフェ」では、好きなコーヒーの淹れ方を教わり、皆さんと楽しい時間を過ごせました。実は喫茶店をやるのが夢だったんです。値段は高いけど、いつか銅製のケトルがほしいな。  
庄司礼子さん

●写真洗浄ボランティア・おもいでかえるの写真展示会で、子どもと亡き母の写真を収めたアルバムが見つかりました。四十年ぐらい前のものです。母の写真は一枚も無かったので、本当に良かった。あとは、結婚式の写真と賞状を探してるんだけど、何とか見つかるといいね。  
大友要一さん



●戸建ての復興公営住宅を希望する方々の勉強会「荒浜復興公営住宅（戸建）推進協議会」を、毎月第二・四日曜日の十三時三十分から、若林区荒井小学校用地仮設住宅集会所で行っています。どなたでも参加できますので、興味がある方はお越しください。お問い合わせは〇八〇一三九四一八四三九（最知）まで。  
最知幸子さん

●「鳴瀬サロン」に参加しているんだけど、皆の顔を見て、笑いあうのがすごく癒しになってます。同じ避難所で過ごした人と再会したり、同じような経験をしてきた方など、何か通じ合うものがありますね。  
高橋 明さん

●J-R南小泉アパート仮設住宅の有志で仙台市の歴史姉妹都市・愛媛県宇和島市から支援された真珠を使った、ハワイアンリボンのストラップをつくっています。講師は、健康相談ボランティアに来てくれている看護師の高橋姉妹。以前、お姉さんが深沼海



水浴場でシーズン中に救護をしてくれていたご縁で繋がっています。支援された真珠で何をつくらうか考えていた私たちの相談に、ハワイアンリボンの創始者キヤートル・ミトさんに師事し、インストラクター資格をもつ姉妹から提案されました。宇和島とハワイのホノルル州は姉妹都市。三都市の要素が詰まった手づくり品ができました。まずは宇和島市の道の駅で販売され、その後は、販路拡大も考えています。  
大久保紘子さんらJ-R南小泉アパートにお住まいの皆さん

●五月に宮城野区の雑子袋地区に家を建てる予定です。移転してから今までもおり南蒲生のまちづくりに関わっていただけいいね。妻は、「好きな花に囲まれて暮らしたい。太陽光発電の設置に対する補助がもっとあるといいの」と言っています。  
佐藤 匡・みよさんご夫妻

●震災直後は他県にいる娘の家に避難していましたが、体調を崩して入院。お医者さん曰く「地震のショックやストレス、疲れが溜まったのが原因」だったそうです。今は仙台に戻り仮設住宅で暮らしていますが、温かい仲間に戻られて元気いっぱいになっていきます。  
佐々木はつ子さん

●同じ仮設住宅に住む八人で、フラダンスチームを組んでの。ちゃんと練習も週に一回ぐらいしてるんだから。地域のイベントなどに呼ばれて踊ってるの。いろんな所に行けるし、すごく楽しいね。  
中澤さん

## ごあいさつ

震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅でのコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするために、2011年12月に創刊しました。「みやぎの版」「わかばやし版」「たいはく版」を月1回発行し、これまでに16号をお届けしています。

今号は、住まいの再建の場となる移転先宅地や復興公営住宅周辺の地域情報、新たなコミュニティの創生というテーマも含めた形で、仙台市全域版の「みらいん」をお届けします。

次の一歩を踏み出すための情報紙として。応援の言葉を見つける冊子として。またはほっとひと息つく時の読み物として…。本紙が少しでもお役に立てれば幸いです。

「みらいん」編集部一同



### 震災復興 地域かわら版 みらいん【17号】

2013年3月19日発行

発行  
仙台市

#### 企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック  
岡崎裕子  
熱海奈穂子／鉦鹿大輔／菊地明彦  
齋藤孝之／佐藤有希／芳賀幸子  
金子秀樹

#### 印刷

ハリウコミュニケーションズ株式会社

#### 協力

河北新報社

#### 特別協力 (五十音順、敬称略)

板橋誠／菊地勝良／貴田勝彦／小林国男 (鶴が丘1丁目町内会長)  
佐藤利幸／佐藤豊  
社会福祉法人仙台市社会福祉協議会中核支えあいセンター  
鈴木智子 (一般社団法人パーソナルサポートセンター)  
花工房遊 you

#### お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁目の目西町 2-12  
「みらいん」編集部  
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756  
kawara@mmmm.or.jp

## 表紙のひと

(左より) 千葉優子さん、尾形良枝さん、大村知江さん

太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で、写真の3名を含む方々が、料理家の枝元なほみさん主宰の「にこまるプロジェクト」による「にこまるクッキー」づくりに出会いました。

中でも千葉さんは、枝元さんが震災直後に避難所に支援協力をしてきた頃に知り合い、意気投合した間柄です。

各地で売られ、利益が還元されるしくみの「にこまるクッキー」は、厳選された国産小麦粉、バター、きび砂糖が材料に使われています。

一番のこだわりは、いかに可愛くつくるか。

その分、食べるのが勿体なく感じる、と皆さんは口を揃えます。

作業に没頭し無心になれること、好きなことで収入が得られることなど、魅力の多いクッキーづくりですが、目下の課題は作業する場所の確保。知人の花屋さんの厚意によりなんとか借りられた場所も使えなくなり、今はクッキーづくりを中断しています。

新たな作業場所の確保にご協力くださる方は、ご連絡をお願いします。

お問い合わせは03-3452-5125 (チームむかご) まで。

撮影場所 / 2月まで使用していたクッキーづくりの作業場



## 荒浜地区

市内唯一の海水浴場・深沼海水浴場のある荒浜地区。半農半漁の暮らしを長く続けてきた集落です。現在、その面影はなくなってしまいましたが、荒浜小学校の校舎だけはそのままの姿で、同じ場所に建っています。

明治時代に開校した荒浜小学校は、児童の学び舎としてはもちろん、地域の交流の場として活用されていました。校庭で行われていた、町内6区対抗の「学区民運動会」は毎年の恒例行事。区ごとそれぞれの練習場所では、夜間照明を入れてまで、本気で練習をする大人たちの姿が見られたそうです。右上の大きな写真は、1979年に改築される前の木造校舎です。

太鼓の写真は、1960年～70年代と思われる、神明社という神社の夏祭りの様子です。祭りの開催を告げるために打ち鳴らされた太鼓は、その役目を終えると松の木に吊り下げられ、子どもたちの楽器となっていたようです。

左側3枚は真山堀と、海岸を写し出したもの。50年以上前、コンクリート化される前の堀の様子、1990年代に堀で行われていたシジミ漁の船に乗って隣町の花火を見に行く方々、そして昭和初期、荒浜の海岸に戻ってきた漁船の様子です。この船揚げは集落の老若男女が手伝ったそうです。

失われてしまった集落の営みが、写真の中に生き生きと写し出されています。

### 写真提供

写真は荒浜にお住まいの方と、ボランティア団体「おもいでかえる」(070-5473-3585)からお借りしたものです。「おもいでかえる」は津波浸水地から拾われた写真を洗浄し、展示会などを通して持ち主へ返却する活動を行っています。